

■エレベーターを付ける運動

私が障害者運動に参加し始めた1970年代の初めのころ「地下鉄12号線にエレベーターを付ける会」というのがありました。新宿牛込地区に住む車いす障害者を中心に、青年たちが集まり学習会や点検活動などを行っていました。私も20代はじめで、若い仲間とワイワイガヤガヤするのが楽しくて参加していました（気になる女性がいたのも事実です）。「地下鉄にエレベーターが付けば便利だな」と思っていました。が、「無理だろうな」とも内心で思っていました。

ところが、その地下鉄12号線が、今の都営地下鉄大江戸線です。10年ほど前の開通当初から、全駅にエレベーターが付き、ホームから地上までバリアフリーで行けます。私にとって隔世の感があります。運動に参加しながら確信のないつばやきをしたことを恥じています。

そのころから、私たちは、盛んに点検活動を行いました。高度成長期につくられた駅や町を点検しては、ため息が出るのがたびたびでしたが、不自由のない環境をつくる権利、行きたいところに行ける権利は、人間の当然の権利として、運動を続けてきました。世論に訴え、動かしながら。この40余年、町を変



第3回 地下鉄にエレベーターを付ける

市橋 博



いち はし ひろし / 1949年生まれ。脳性マヒを抱えながら、さまざまな障害者運動にとりくむ。現在、障害者と家族の生活と権利を守る都民連絡会副会長。

え、世論を変えてきたことを、私たちは誇りに思っているのではないのでしょうか。

■権利条約の実現を求めて

障害者権利条約が批准され、新たな力も得ました。しかし課題はたくさんあります。例えば、駅にエレベーターが付いても、車両とホームの段差が解消されなければ、車いす障害者の自由な乗降は保障されません。駅にエレベーターが付いて、一番重宝しているのが、ベビーカーを押したパパ・ママではないでしょうか。戦争法反対や「保育園落ちた」

でパワーを発揮しているパパ・ママをはじめ多くの人に、「障害者運動により、エレベーターが付いた、だから、運動で世の中は変えられる」ことを知ってほしいと思います。若い人のパワーのもとになると思います。

もつとも私は、春になり孫をベビーカーに乗せて出かける長男の嫁に、運動の成果をトクトクと話したら、嫌な顔をされましたが。

■運動を知っていてくれた

わが家の近くの京王線国領駅にエレベーターが付いたころ、遅刻しそ



『〇〇ちゃんとおともだち』

寺沢真弓
特別支援学校教員

振りながら歌い始めます。時には、段々ゆっくり大きく手を振るように歌ったりもします。「あくしゅをしよう」の後、少し間をとり、最後の「きゅっ きゅっ きゅっ」のフレーズを楽しみに、しっかりと視線を合わせ。期待いっぱいの表情で見返してきた子もいました。動きを止め、表情を止め、身構えて、全身で最後のフレ

ーズを楽しみにした子もいました。「きゅっ きゅっ きゅっ」のところは、しっかりと、やや強く手を握ります。腕をブラブラするかかわりが好きな子どもには、手をしっかりと握り、腕をブラブラと振り、少し長めに最後の「きゅっ」を歌い、歌い終わるとともに手を放します。遊びの余韻を楽しんでもらいます。

遊びが終わるとすぐに気持ちも離れてしまっていたかんちゃん、たくさんくり返し遊び、握手の歌が好きなようになってくると、「あれ？ おわっちゃったの？」というようにもの足りなさそうな、不満そうな表情を見せるようになってきました。

気持ちもゆだねる

高校生ですが、からだの小さなあいちゃん、抱っこすると腕を縮ませて肩に力を入れていました。手をやさしく握って、握手の歌で遊びました。すると、腕が段々からだから離れ、ゆったりと伸び、肩の力も抜けてきました。楽しくて気持ちが高まる遊び方もいいけれど、ゆったりとリラックスし、相手にからだも気持ちもゆだねてこられるような遊び方もいいと思っています。

(てらさわ まゆみ)

「〇〇ちゃんとおともだち」、名前を呼ばれて、そして最後にぎゅーっと握り合い、気持ちを通い合わせ、なかよしになる手遊びです。座っている子どもと向かい合って歌ったり、寝転んでいる子どもの手をとって歌ったり、抱っこした子どもの手をとって歌ったり、いろいろな姿勢でできます。正面で顔を合わせることが苦手な子どもとは隣に並んで、車いすに座っている子どもの手をとって、抱っこでしっかりとだを密着させて等々、子どもとの距離感もさまざまにとつてできる遊びです。

*

原曲は、うんと以前の『みんなのねがい』に載っていました。「おともだち」だけでなく「〇〇ちゃんとせんせい」と、「一緒に遊ぼう」、そんな気持ちを込めて歌うこともあります。



上下に振って

きゅっきゅっきゅっ

寝ている体勢でも

抱っこしながら

全障研のHP、『みんなのねがい』のページから動画で見ることができます。



▶地下鉄大江戸線のエレベーター

うなので駆け足でエレベーターに向かうと「急がないでいいよ。あんたが乗らないと。あんたが付けたようなものだから」と声をかけられました。見ると、子どもを障害児学校に通わせているお母さんでした。よく都連の要請行動に参加してくださる方でした。自慢するのではありません。運動の力でこのエレベーターが付いたことを知っていてくれたことが、うれしくなりました。

もつとこのような人を増やさなければと思います。じじいの説教でなく、実態を示しながら。